

(公印省略)

15病防第1号の11
平成16年 2月 3日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、病害虫発生予報第11号を発表したので送付します。

平成15年度病害虫発生予報第11号
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【野菜】

| 作物名 | 病害虫名 | 発生現況 (平年比) | 発生予想 (平年比) |
|--------|----------------------------------|------------------------|----------------------|
| 冬春トマト | 葉かび病 灰色かび病 菌核病 | 多い 並 並 | 多い 並 並 |
| 冬春ナス | すすかび病 うどんこ病 灰色かび病 | 並 やや少ない 並 | 並 並 並 |
| 冬春キュウリ | 褐斑病 べと病 うどんこ病 灰色かび病 | やや多い 並 やや多い 並 | 多い 並 やや多い 並 |
| イチゴ | うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類 アブラムシ類 | 並 並 多い 並 | 並 並 多い 並 |
| キャベツ | 黒腐病 菌核病 コナガ | 並 並 並 | 並 並 並 |
| レタス | 腐敗病 灰色かび病 菌核病 | やや多い 並 並 | やや多い 並 並 |
| 野菜共通 | コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ | やや少ない 並 | やや少ない 並 |

【野 菜】

1 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は12.2%（平年：2.7%、前年：4.2%）であった。多発しているほ場も一部で見られる。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ-テ-ション散布する。

カ 薬剤防除については使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

2 ナスのすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並で前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は22.0%（平年：20.1%、前年：31.0%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、着果量調整や、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ-テ-ション散布する。

3 キュウリの褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は2.0%（平年：0.4%、前年：0.7%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。
- イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する
- エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ - テ - ション散布する。

4 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並で前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

- ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は2.7% (平年:2.0%、前年:1.1%)であった。
- イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉の裏面を随時観察し、早期発見に努める。
- イ 下葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかるようにする。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ - テ - ション散布する。

5 イチゴのハダニ類 (平成16年2月3日発表の注意報第3号参照)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

- ア 1月5半旬調査の結果、寄生株率は11.1% (平年:2.0%、前年:1.0%)であった。
- イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 厳寒期は、ハダニ類の増加は緩慢となるが、温度が上がる2月頃から急激に密度が高くなるので、発生状況に注意する。
- イ 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
- ウ イチゴ以外の植物にも寄生するので除草を行う。
- エ 寄生した株のかぎ取った下葉や除草した雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。
- オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ - テ - ション散布する。

6 キャベツのコナガ

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年より多い

(2) 予報の根拠

- ア 1月5半旬調査の結果、寄生株率は2.2% (平年:6.5%、前年:0.3%)であった。
- イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齡幼虫には薬剤の効果が低いので、1～2齡幼虫を対象に防除を実施する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ - テ - ション散布する。

7 レタスの腐敗病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は4.0%（平年：1.0%、前年：3.4%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並が多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は発病初期のうちから実施する。

イ トンネル管理をこまめに行い、寒害防止やトンネル内が多湿にならないようにする。

ウ 発病株はほ場に放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。

2月の気象予報（1か月）

（予報期間 1月31日～2月29日）

2004年 1月30日

福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並の可能性が大きいです。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

| 要素 | 低い （少ない） | 平年並 | 高い （多い） |
|------|-------------|-----|------------|
| 気温 | 20 | 40 | 40 |
| 降水量 | 20 | 40 | 40 |
| 日照時間 | 20 | 50 | 30 |

- < 1週目の予報 > 1月31日～2月6日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいです。
- < 2週目の予報 > 2月7日～2月13日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいです。
- < 3～4週目の予報 > 2月14日～2月27日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいです。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

| 向こう1か月 | | | 平均気温（ ） | | |
|---------|----------|----------|---------|-----|-------|
| 平均気温（ ） | 降水量 (mm) | 日照時間 (h) | 1週目 | 2週目 | 3-4週目 |
| 6.9 | 74.2 | 123.4 | 6.0 | 6.7 | 7.3 |

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp